

藤見俊夫

准教授 博士(農学)

fujimi@kumamoto-u.ac.jp

研究のキーワード

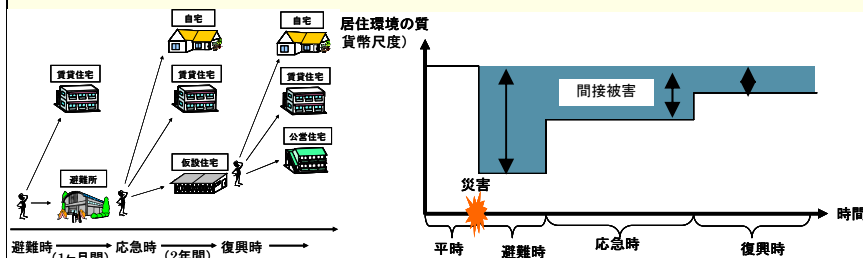
リスクマネジメント, 災害被害調査, 不確実性下の意思決定, 防災計画, リスクコミュニケーション

災害による住宅損壊に伴う間接被害の定量評価

災害により住宅が損壊した場合、家計は、住み慣れた住宅を離れ、避難所や仮設住宅などでの生活を余儀なくされる。このとき、家計は生活環境の悪化という負の便益をこうむることになる。これを住宅損壊の間接被害と呼ぶ。これは災害後の住宅政策を効率的に進めるうえで不可欠な情報である。

新潟県長岡市の世帯を対象に、コンジョイント分析により間接被害額(長岡市の平均的家計)の推定を行った。その結果、自宅から避難所で20.6万円/月、仮設住宅で16.0万円/月、公営住宅で13.4万円/月、賃貸住宅で9.6万円/月の損失を被ることが明らかになった。

この結果は、大阪府の地震被害想定の利用される予定である。



研究課題

- 1) ライフサイクルを考慮した世帯レベルでのリスクマネジメントに関する研究
- 2) 災害保険に関する曖昧性が保険購入行動に及ぼす影響の定量分析
- 3) 被災による事業中断が産業部門の経済被害推計に関する研究
- 4) 大規模公共事業における効果的なリスクコミュニケーション手法の開発
- 5) 事業リスクマネジメントの構築と評価手法に関する研究
- 6) 事例ベース意思決定モデルに基づく厚生経済分析手法の開発

企業の皆様へ

災害リスクに対して、個人や世帯、企業がどのようにリスクマネジメントをするべきかについて研究しています。今後は、社会基盤整備におけるリスクの軽減・移転手法についても研究していく所存ですので、興味がありましたらお気軽に声をかけてください。